おおさき
今昔物語
大崎・このまちの ルーツを訪ねて
その32

知られざる大崎の歩みを訪ねて。【OSAKI草創編】

水辺に暮らしを育んだ縄文の日々から、ものづくりの時代へ。

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大 崎」のDNA（原風景）を訪ねる『おおさき今昔物語』。
その第三十二話は、郷土大崎の祖先が育ん だ“大崎創世”の歩み。（※一部、バックナンバー引用）
目黒川河口に海の幸を糧として育んだ縄文時代の暮らしから、近代大崎の工業化まで、大崎の地理、風土の中に営々として築かれてきた大崎発展への歴史の草創期を辿ります。

今から約三千年前の太古の大崎地域の姿。それは、東京湾が陸中深くまで入り込み、目黒川は海とほぼ一体となった谷となり、大崎の先人たちはここで魚貝を糧とする縄文人の生活を営んでいたのでした。その後、目黒川畔に稲作を興して「生産地」としての大崎の歴史が始まり、やがて明治の頃ともなれば、ものづくりによる日本の近代工業化牽引への歴史が築かれていったのでした。

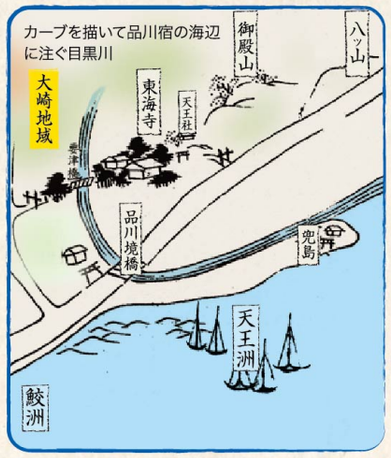
OSAKI Early Time History
大崎“草創期”の頃の歩み

約3千年前	縄文時代前期、大崎の祖先は東京湾に流れる目黒川の河口で魚貝を採りながら生活していた
縄文時代	後に居木橋貝塚及び竪穴式住居の発掘により、豊かな自然の中で土器や装飾品に囲まれた縄文時代を代表する生活を営んでいたものと予想される
江戸時代	品川宿が繁栄し、これに向けた食料供給地として、目黒川畔に水田が形成される
江戸中期	目黒川畔にあった旧居木神社が、川の氾濫を避け、現在地へ遷座。これに伴い当社を中心とする村づくりが進む
江戸元禄の頃	大崎は大名のリゾート地化へ
明治初期	明治政府の殖産興業化で、大崎へ工場進出が始まる
明治後期	日露戦争以降、目黒川畔への工場進出が顕著に

復元展示された一大茶苑「大崎苑」

大崎の守り神「居木神社」

桜咲く“江戸の絶景リゾート地”として多くの浮世絵に描かれ、人気を集めた御殿山～大崎周辺。



東海道の第一宿として賑わいを見せた品川宿の海辺に注ぐ目黒川。当時の目黒川はカーブを描いて八ツ山方面へと流れ込んでいました。大崎地域は海がすぐそばに迫る川口にあり、やがて水利の良さから目黒川河畔には海運を通じて近代産業の礎が築かれていくことになります。

居木神社脇の立て札が示す『居木橋遺跡』。周辺では5つの貝塚が確認され、また竪穴住居跡からはクジラの骨製の骨器や中仕切のある高台付鉢、さらに深鉢土器や耳飾りなども出土し、縄文時代前期の貴重な遺跡として大きな注目を集めました。（写真右・下）

豊かな自然と共に生きた祖先の暮らし。ここから川添いに育んだ生産と文化の歴史が始まっていきます。

『居木橋貝塚』発掘で明かされた縄文時代の大崎。やがて江戸の頃には田園の里へ

過去に大崎で行われた発掘調査により明らかになった居木橋遺跡（現・大崎2～3丁目付近）の存在は、かってはここが海岸線となり、縄文時代の先人達が魚貝を糧として暮らしていたことを明かしています。その後、鎌倉時代には目黒川流域に水田が開かれ、江戸の頃には豊かな田園地帯となって、水と緑が成す大崎の原風景を築いていったのでした。とくに、一大食料消費地としての江戸の都に近く、品川宿にも近かった江戸時代の大崎（後の荏原郡大崎村周辺）では、野菜の栽培が盛んに行われ、食料提供基地としての機能を果たしていきます。そんな大崎を代表する特産品の一つが、有名な『居木橋カボチャ』。かつて目黒川の畔にあった居木神社を中心に、桐ヶ谷から居木橋地域一帯に広がる農地で採れたことから居木橋カボチャと呼ばれたこの名産品は“肥沃な農産地、大崎”を代表する地域ブランドとして広く知られた存在でした。

甘くて美味しかった大崎の特産品『居木橋カボチャ』

居木神社を中心に始まった村づくり。江戸後期には大名の“リゾート地”へ

大崎の本格的な村づくりの発端となったのが、江戸中期の居木神社の変遷と旧四社の合祀。旧ゆるぎ橋（現在の居木橋）から現在地へ遷座した五社明神としての、この新しい大崎の守り神を中心に、多くの人々が現在地へと移り住んだとされています。さらに元禄の頃には、徳川幕府の天領地として、御殿山を中心とするお鷹場に指定され、春の桜見物と併せた景勝の“リゾート地”として、さらには松江藩松平家による「大崎苑」と呼ばれる茶室の“一大テーマパーク地”として、大崎の新たな文化的土壌の形成へとつながっていったのでした。

明治政府の殖産興業策で、「大崎の工業化」へ

明治の時代となって、大崎は大きな変革の歴史を迎えることとなります。日露戦争の頃には、目黒川沿岸に相次いで工場が建てられ、農業中心だった大崎の産業も、明治政府の殖産興業政策の下で目覚ましい工業化への変貌を遂げていきます。中でも、明治初頭に造られた日本初の近代ガラス工場「品川硝子製作所」は、代表的なものづくりの種子となり、その後の大崎の工業化へ、さらには技術立国日本の牽引役としての役割を果たしていったのでした。（続く）

復元展示された「品川硝子製造所」

資料出典：品川歴史館、他